

# 地域サロンと農地を活用した 施設利用者の活動



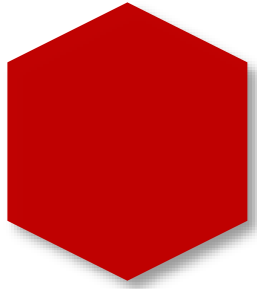
赤い羽根  
福祉基金

静岡県 救護施設 慈照園

指導員

廣瀬 幹雄





# 本日の内容

- 1 事業の概要
- 2 施設の状況
- 3 企画から実行までのプロセス
- 4 担当者の苦心したポイントと解決方法
- 5 他施設で取り組むためのメッセージ
- 6 経費

※掲載写真はご本人の了解を得ています



赤い羽根  
福祉基金

# 1.

## 事業の概要

### 事業に取り組む背景

当園を退所し、地域で暮らしている方で、趣味や生きがいなく生活している方が見られる。他法施策のサービスを利用しても、コミュニケーションが苦手な孤立している方も多い。入所中の方には、退所しても当園の行事やクラブ活動を継続的に参加できることを認識してもらい、地域移行への不安を取り除く。

サロン用貸事務所や農地を賃借して活動の場所を確保し、作業やクラブ活動、イベント等を用意することより、就業体験や地域住民も含めた仲間づくりを行う。



## 2.

# 施設の状況

入所定員50名 平均年齢52才

居宅訓練事業3名実施

保護施設通所事業実施

通所定員10名(現員5名)

訪問定員18名(現員16名)

浜松市中心部に近い住宅地の中にある施設です。

20代から60代で主に精神障害を持つ方が多く入所されています。



3.

## 企画から実行までのプロセス

① サロン事業

② 農地を活用した活動



# 3.

## ①地域サロン事業

### (1) サロン事業事前準備

#### 活動物件の選定と締結

- ・物件契約
- ・電気、水道、電話契約
- ・備品の準備

(テーブル、いす、エアコン、掃除用具、等)



赤い羽根  
福祉基金

# 3.

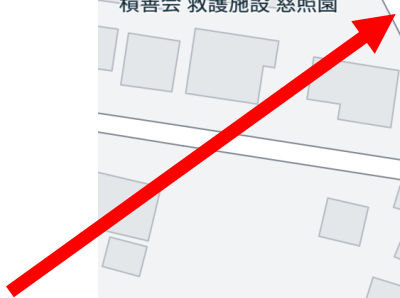
## 拠点となる施設の確保

慈照園 園舎 目の前 物件は古いですが  
立地の良さで決めました。

慈照園



拠点施設



赤い羽根  
福祉基金

3.

## 拠点となる施設の確保



拠点施設 第二あすなろ工房 外観



拠点施設 第二あすなろ工房玄関 外観



赤い羽根  
福祉基金

# 3.

## ① 地域サロン事業

### (2) サロン事業の内容 内職作業



輸送用機器の部品加工  
(バリ取り) や  
組み立てを行っています。

週6日 土曜日は半日



赤い羽根  
福祉基金

# 3.

## ① 地域サロン事業



赤い羽根  
福祉基金

### (2) 地域サロン事業の内容 クラブ活動



絵手紙クラブの様子

茶道クラブ

書道クラブ

絵手紙クラブ (ボランティア講師)

ヨーガクラブ (ボランティア講師)

手芸クラブ

※各クラブ月1回程度

# 3.

## ① 地域サロン事業

### (2) 地域サロン事業の内容 サロン活動



赤い羽根  
福祉基金



**退園者交流会 年1回**  
退園者と退園予定者が集まり  
情報交換を行いました。



**料理教室 月1回**  
農園でとれた野菜も  
使います。



**コーヒー教室 年2回**  
近隣住民、元職員、利用者  
家族 合計63名の来園が  
ありました。

# 3.

## ②農地を活用した活動

### (1)事前準備



赤い羽根  
福祉基金



### 市民農園の申請

※浜松市は緑政課が窓口でした。

徒歩3分圏内  
広さ100m<sup>2</sup>程度



# 3.

## ②農地を活用した活動 内容



赤い羽根  
福祉基金



さつまいも 収穫の様子



コーヒー教室にて大根販売

### 栽培品

ナス  
きゅうり  
トマト  
さつまいも  
大根 玉ねぎ

### 販売先

職員・民生委員  
地域の方



# 4.

## 担当者の苦心したポイント 1

●日常の交流もイベント開催においても、コロナ禍により地域住民への積極的な勧誘が困難な状況が続いている。今後の感染状況により、改善されることが期待される。

●コーヒー教室も、コロナ禍により、大勢の近隣住民に参加していただく事が難しかった。近隣へのチラシ配布、民生児童委員の会合にて告知、元職員への告知を行い来場につなぐことができた。コロナ禍収束の折にはもう少し大規模に告知集客することができると思う。

昨年に引き続き2年目のコーヒー教室開催となった。準備にも慣れ、地域のお客様のリピーターができた。今後も継続することにより、施設利用者と地域住民の交流が深まると予想される。

●コーヒー教室の参加者には、施設利用者と地域住民より同額の100円の参加費をいただいた。収益を重視せず、低額な設定により参加しやすさと多少の参加意識を持っていただく目的により設定したが、実施施設にて検討の必要がある。



## 4.

# 担当者の苦心したポイント 2

- 地域住民と施設利用者との交流には、慣れていない方がいるため、最初は職員が介入し支援をしていくことが必要だった。継続することにより、自然な交流ができていくと期待される。きっかけづくりとしてサロン事業が必要である。
- 飲食物を提供するにあたり、営業許可や食品取扱届出事案に該当しないよう、材料機材を用意し、ボランティア指導の下、自分でコーヒーを淹れてもらう形式とした。
- 農園作業を担う職員の確保に苦心した。事業の重要性を説明し理解を得た。利用者には好評で、通常の内職（紙漉きのハガキの製作）より楽しいという声もあり、職員のモチベーションに繋がった。



# 5.

## 他の施設で取り組むためのメッセージ

社会福祉法人の使命（精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築や公益的取り組み）を全職員に説明し理解と協力を得ることや、他機関とも協力して事業を行うことが必要です。



赤い羽根  
福祉基金

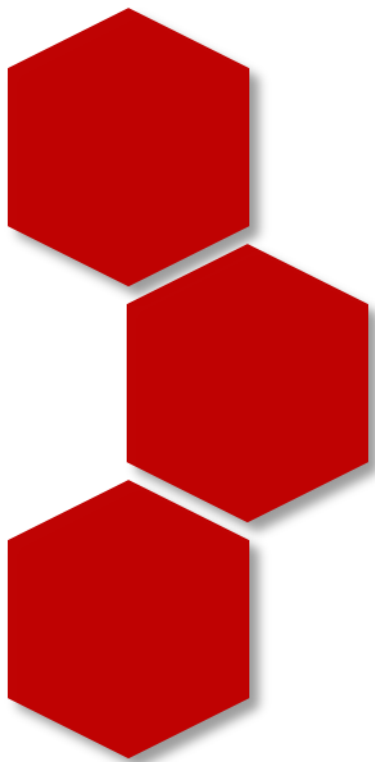
## 6.

## 経費報告

	費目・品名	金額(円)	詳細(内容・単価×個数など)
事業に要する経費	土地建物賃借料	1,200,000	賃料 @100,000×12ヵ月
	水道光熱費	120,000	水道・電気代 @10,000円×12ヵ月
	通信費	96,000	電話・Wifi 使用料 @8,000円×12ヵ月
	保険料	10,000	家財火災保険
	サロンイベント事業費	39,989	コーヒー教室材料費 11,554円 コーヒー教室講師謝礼 @5,000円×2日 退園者交流会食材費 @14,000円×1回 絵手紙教室等材料費 4,435円
	農園事業費	36,168	農地使用料 @12,480円×2面 肥料・資材費 11,208円
	消耗品費	10,000	消耗品費@833×12ヵ月
	雑費	10,000	振込手数料@660×12回 他
	計	1,522,157円	



赤い羽根  
福祉基金



ご清聴ありがとうございました



赤い羽根  
福祉基金

---